

# どんぐり通信



上野 絢子・葛木 裕子・林 優夏 10月号

## 10月の開設案内



- 10月11日(金)は、運動会準備の為
  - 10月15日(火)は、運動会振り替え休日の為
  - 10月18日(金)は、新入園児面接の為
- どんぐり組は開設していません。
- どんぐり組の預かり保育希望書提出日は(10/2・10/9・10/16・10/23・10/30) 毎週水曜日の15時までです。
  - 定期預かり保育希望書の提出日は、(10/16~1/1)→10/9 と(1/5~1/15)→10/30です。お忘れのないよう、ご提出よろしくお願い致します。

厳しい夏の暑さもようやく落ちつき、秋らしいうらこ雲がよく見えるようになりました。2学期がスタートしてはや1ヶ月が過ぎ、どんぐり組でもそんな素敵な秋を沢山見つけ、感じようと、先日、園内の植物探険に出掛けました。

さあ、どんぐり組のお部屋から見えるミカンの木です。春夏の頃は、あまり気にしていませんが、最近では大きな青い実がよく目立つようになりました。年長さんを筆頭に「もうミカン出来たかな〜」「ほやくミカン食べたいな〜」という声がよく飛びかっています。そこで、どんぐり組の会話の時間にミカンのことについて話していると、「へー、知ってる? 幼稚園で食べたの木のあんねんぞ!!」と物知りな年長さんが教えてくれました。すると、「私も!! ひよこ組の時に食べたことある〜!」と、さくらの話題が又盛り上がりだせ、かくの異年齢保育だからこそ!! 沢山の知識ある年長さんから子どもたち同士で教え合ったり交流のチャンス!! と考え、園内の地図を片手に、どこにどんぐり植物があるのか探険に出掛けました。

「ここにミカンがあるぞ〜」「ここにレモンの木がある、たんじゃいっ?」(レモンの木はありませんでした...)

「うわあ! 実が落ちてる〜」「こっちはももやぞ!!」と、子どもたち同士で教え合ったり話合ったりする姿が見られ、時には、遊具場のぼろぼろ上から運動場全体を見回したり... と元気いっぴいのどんぐり探険隊でした。

ウッドデッキ前にあるさくらの木の前は、「ほんま不思議な木だな〜」と、真剣にさくらの実を見入っている年少さんの姿もありました。「さくらは、ひよこや、まじりか、たら食べようぞ!!」と園長先生にも食べようを教えてもらい、今も今もさくらの食べようを伺う毎日です。もう少し秋が深まれば、橙色に色づいたミカンや赤くはじけたさくらの実を、どんぐり組で味わいたいと思います。今月もどうぞよろしくお願い致します。

## どんぐり組からのお願い



- 希望者のキャンセルやバス停の変更等は、必ず当日にお電話にてお知らせ下さい。バスコースの確認やおやつ準備の都合上、連絡帳のみのご連絡はご遠慮下さい。
- ご参加当日は、連絡帳を見ながら各担任の先生と相互確認を行っています。必ず「ご利用の日付・園迎え又はバス停」をご記入頂きますよう、よろしくお願い致します。
- 急用等での、当日申し込みやキャンセルは「ご利用当日の朝9時」までになります。前日までのご連絡や、希望者以外での利用予約は出来かねますのでご承知下さい。お忙しい中、何かとご不便をお掛けしますが、ご利用下さる子どもたちや保護者の皆様に守り利用して頂くよう努めて参りますので、ご理解・ご協力を改めてよろしくお願い致します。

1% 相対的に利用です。(記入例)  
バス停は〇〇です。

あぐりや全体活動から異年齢の交流を促す。落ちこぼれ、リカバネの目的に心がけていきます。

絵本コーナーに大きなソフトボードを設置し、自由な物語作りあそびを広げていきます。

秋の自然物を取り入れます。

### 生活

### 10月の保育内容

### 造形

秋らしい季節のうたから秋を身体いっぴいに味わいます。

運動会の表現あそびや「ふーいん!」の紙飛行機あそびの中で取り入れます。

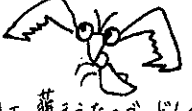
秋の植物や季節の葉っぱを採りにいきます。

### 音楽

### 体育

### 自然

## またね! カマキリさん



9月のはじめ、バスの運転士さんが大きなカマキリを獲ってきたので、どんぐり組に運んで来てくれました。虫好きの子たちが集まり、どんぐり組では、たちまちカマキリは人気者になりました。葉っぱや木の枝、時には「カマキリは、ゴロギョウを食べるぞ!!」とゴロギョウを持ってきた子もいました。虫好きのカマキリさん、9月の狂歌の中、日に日に弱ってしまひ、あつ日ふんをあげると動かさなは、ていまして... そんなカマキリさん王前にどくするの、観察していると、「木はかたから死んだんかた?」「ご飯はからやぞ。」と話合ったり。「死んだらたらお墓作てあげないと」と話ばもとまり、さ、そくお墓を作ることにしました。虫や生き物との関わりから生きるこ、死ぬこを子どもたち自身、敏感に感じていることに改めて気づき、私自身もハッとさせられました。また生きた愛おむたら、どんぐり組にも遊びに来てくださるといいですね。